

研究推進部

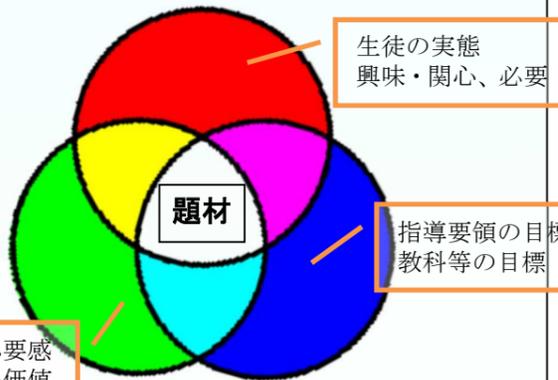
授業力を高める

少人数チームでの話し合い

- ① いつでもどこでも自由に気楽に日常的に
- ② 自分たちで考える自由闊達な議論
- ③ 「説得・教授」から「対話・学び合い」へ

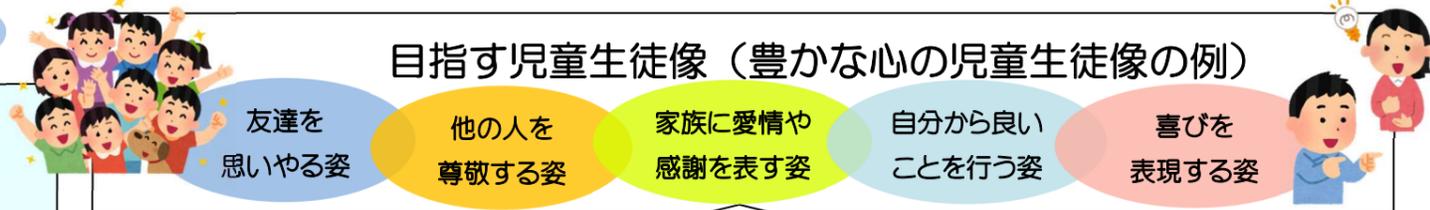
チームによる継続的な授業実践・改善

- ① 少人数チームで「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点から単元や授業内容を検討
- ② 少人数チームで授業案作成・実施
- ③ 少人数チームで授業検討・評価
毎回の授業評価には児童・生徒の反応や変化を記録するための「授業振り返りメモ」を活用し、次回の授業に改善を反映
- ④ 児童・生徒の変化を継続的に観察



特別支援教育専門性向上研修

- ・ 特別支援教育に関する基礎研修
- ・ 医療・保健・安全に関する研修
- ・ 進路指導に関する研修
- ・ 生徒指導に関する研修



研究テーマ 「できた！」を引き出す授業づくり
～個別最適な学びと協働的な学びの往還から～

研究仮説

- ・ 少人数の職員授業チームを編成し、「授業振り返りメモ」を活用しながら授業改善を繰り返すことで、主体的・対話的で深い学びの授業が実現できる。
- ・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点から授業を見直し、2つの観点を往還する単元構成や授業づくりをしていくことで、目指す授業づくりができる。

熟練者は初任者に 解釈や考え方をサポート

ICT が得意な人は苦手な人を支援・サポート

語り合い・教え合い・学び合う教職員

大切にしたい中核的な価値観
違いを認め合い、受け入れ、互いに尊重する
「多様性」を活かす「包摂」的な態度・議論・対話

自由闊達な議論

積極的な発信・発表

全体での実践共有

少人数のチーム 編制

全体での意見交換

少人数での参観・協議

実践 一人でチームで



多様な職員構成を活かす

意見を言いやすい雰囲気

じっくり聴く話す時間の確保

いつでも気軽に情報交換

情報・視聴覚部

ICT 機器活用力を高める

つかってできる

⇒児童生徒の困難を補償する機器の活用
「できない」を改善・克服する ICT 機器の活用で、子どもたちに「できた」を実感させ、「自立と社会参加」を推進する。

つかってわかる

⇒ICT 機器を活用した授業改善
分かりにくい・イメージしにくいを、機器の活用でより具体的に「わかる」ように提示し、「もっと知りたい」「もっとやりたい」意欲を生み出すツールとする。
提示型活用・思考支援型活用・習熟型活用・コミュニケーション型活用

つかってつながる

⇒ICT 機器を活用した多様な出会いの設定
様々な人々と「会える時間」を共有し、ものの見方や考え方を広げたり、様々な思いや意見を伝え合ったりする。

価値と必要性を理解する教職員

⇒ICT 機器活用のための職員研修の推進
当校教職員が主体となった機器活用研修・授業公開等を通して、職員間の連携と、よりよい授業実践につなげる。

具体的な取組

- ① ルール作り（安全・健康的な機器活用、個人情報管理、機器管理）
- ② 職員研修の実施・機器の紹介
基礎的な技術サポート（誰でも使える）
- ③ 授業実践と成果の発信